

令和4年度 第2回 新津小・中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年10月26日（水） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 新津中学校南校舎1階 会議室
- 3 出席委員 中村 和則、徳井 悟、深津 正樹、大石 陽子、下位 彰吾、赤堀 則之、水谷 裕美、澤根 緑、阿部 まゆみ、内山 真由美
- 4 欠席委員 松田 真紀子、松田 哲
- 5 オブザーバー 黒田 豊（市議会議員）、松本 拓也（新津協働センター）
- 6 学 校 山下 博之（新津小校長）、平野 敦子（新津中校長）、古橋 智一（新津小教頭）、池野 弘昭（新津中教頭）、森 英仁（新津小CS担当教員）、倉知恵理（新津中CS担当教員）、二宮 千穂（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 協議事項
 - （1）議長の選出について
 - （2）学校教育目標を実現するために
 - （3）地域と連携した教育活動

10 会議録作成者 CSディレクター 二宮 千穂

11 会議記録

司会の新津中教頭から、委員総数12人のうち10人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出について

司会から、第1回同様、下位委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

（2）学校教育目標を実現するために

議長の指示により、小・中校長から、別紙資料に基づき学校の現状について説明があり、2～3人でグループ熟議をした後、以下の発言があった。

- ・小・中の年代では心の部分を育てることが大事。先生方に時間の余裕がないと子供たちの心のケアが難しい。地域でサポーター的な立場で子供たちを見ていくことができるような環境を作っていけないか。（深津委員）
- ・先生方の負担が大きい。地域でサポートしていけたら。（大石委員）
- ・不登校児童についても先生と情報共有しながら民生委員でも支援していきたい。（阿部委員）
- ・子育ての経験を生かしてサポートしていきたい。こういったところにサポートが必要か、学校とのすり合わせが大事。（内山委員）
- ・地域にいる素晴らしい人材をどのように活用できるか。人間形成に関してお手伝

いできれば。(中村委員)

- ・地域がサポートするにも連絡を取らなければならないので、先生方の負担が増える。人材バンクを作ったときに、決まった時期に決まった人がサポートしていくような制度になれば、少しでも負担が減るのではないか。(徳井委員)
- ・自分たちに何ができるかを考えたときに、できることがあるのかな、というのがある。こういった場で話し合っ解決していけたら。(赤堀委員)
- ・もっと発信していただいて、家庭でもできることはないか考えていかなければいけない。親にも先生にも余裕がなく、家でも学校でも相談しにくい環境になっていくのは問題。学級通信は楽しみにして子供との会話のきっかけになる。さくら連絡網をもっと活用できないか。(水谷委員)
- ・具体的に、学校から何か言っていただけたら動きやすい。(澤根委員)
- ・人が頑張れる動機は人から必要とされること。小・中の成功体験が大事。
(下位委員)

(3) 地域と連携した教育活動

議長の指示により、小、中2つのグループに分かれて議論をし、それぞれ代表者から以下の発言があった。

○中学校グループ(徳井委員、下位委員、赤堀委員、水谷委員、澤根委員)

- ・総合的な学習の時間において、何かについて調べたいときに、誰に聞いたらいいのかわからない。地域についてよく知っている人をコーディネーターとしてお願いしたい。
→元連合会長が適任ではないか
- ・先生に頼るのではなく、生徒が直接コーディネーターさんに話をしに行くことができれば先生の負担が減る。

↑

- ・新津地区の地域問題検討委員会という組織があるので、そこで検討出来ないか。
(中村委員)

○小学校グループ(中村委員、深津委員、大石委員、阿部委員、内山委員)

- ・総合的な学習の時間では、学ぶだけではなく、感じる部分が大事。体験型にすることで体験したことが記憶として残り、大人に成長していった中で地域に還元される学びになる。
- ・新津には多くの会社、商店、畑、食材があり、身近に感じるができる。感じる、体験する部分を増やした学びにしていき、課題解決するところまで生徒が考える機会があるといい。

その他報告事項

新津小教頭から、第3回会議は、令和5年2月21日(火)午後2時から新津小学校で開催される旨の報告があった。